

第27回鳥取県図書館大会 報告

令和4年9月7日

- 1 日 時 令和4年8月1日(火) 午前10時から午後3時30分まで
 - 2 開催方法 Zoomによるオンライン開催
 - 3 大会テーマ 「ICTを活用した図書館のあり方～デジタル化によるメリットを学ぶ～」
 - 4 内 容
 - (1) 開会行事
 - (2) 記念講演
「“図書館DX”を考える ―学びを支える図書館から学び合いを創る図書館へ―」
講師：野末俊比古氏(青山学院大学教育人間科学部教育学科教授・図書館長)
 - (3) 事例発表
 - ア テーマ：「電子図書館で図書館をもっと身近に、便利に！」
発表者：長本次郎氏(鳥取市立中央図書館 館長)
 - イ テーマ：「GIGAスクール時代に学校図書館ができること」
発表者：安田美穂子氏(南部町立会見小学校 学校司書)
 - ウ テーマ：「ICTを活用したバリアフリー図書のご紹介」
発表者：酒井詩織氏(社会福祉法人鳥取県ライトハウス点字図書館 読書支援員)
 - (4) 分科会
 - 第2分科会：「ポプラディア」をつかいたおそう！
～紙で調べる、電子で調べる。同じ百科事典でどこが違う？～(ワークショップ)
講師：斎木小太郎氏(ポプラ社こどもの学びグループ 開発ユニット
ポプラディアチーム兼こどもの学び研究所 主席研究員)
 - 第3分科会：学校図書館×ICT活用
～デジタルとアナログの融合の先にある新しい図書館を目指して～(パネルディスカッション)
コーディネーター：岩崎有朋氏(鳥取県教育センターGIGAスクール推進課 係長)
パネリスト：黒見真由美氏(江府町立奥大山江府学園 教諭)
尾崎昭彦氏(鳥取県立鳥取工業高等学校 主幹教諭)
橋中真紀子(鳥取県立図書館 学校図書館支援員併小中学校課指導主事)
- ※第1分科会：鳥取県立図書館の電子図書館構想と電子書籍、第4分科会：図書館応援団交流会は延期

5 参加者数 315名

6 参加者の感想等

【記念講演】

- ・図書館DX、教育DX等について理解を深めることができました。一人ひとりに合わせたサービスの最適化、ニーズの把握(要求と必要の違い、自覚していない必要なもの)について図書館ができること、学び合いに図書館がかかわれることを考え実践していきたい。
- ・情報量が多くもやもやしていたICTやアクティブラーニングについて分かりやすくお話いただいたこと、ICTを活用できるアクティブラーニングの具体的な例なども示していただきとても勉強になった。
- ・図書館がGIGAスクール構想を支援していけるヒントや、デジタル時代の図書館が目指す方向性が見えたように思った。AIに力を借りつつ、司書として利用者のニーズに応えられるような図書館作りをしていきたい。

【事例発表】

〈鳥取市立中央図書館〉

- ・自治体の中での図書館の役割が非常に明確で、コロナに対する動きもスピード感を持って臨機応変に対応されていると感じた。そのすべてが鳥取市のビジョンの一つである「人を大切にするまち」ということにつながっていることが良くわかった。これからは”広く市民に親しまれる図書館”であり続けて欲しい。
- ・導入後の状況も今後お聞きできる機会があればと感じた。

〈南部町立会見小学校〉

- ・学校図書館の有用性を感じたと同時に、動かす学校司書(改革する「人」)の存在がかかせないと思った。
- ・ICTを活用しながらHPを作成したり、電子書籍を使用したりと様々なことを実践されており、大変参考になった。学校司書として自分の学校で何ができるのかを改めて考えさせられた。

〈鳥取県ライトハウス点字図書館〉

- ・マルチメディアデージー図書について、今日のお話を聞いて具体的に良さを知ることができた。更に勉強して必要としている子どもたちに届けられるようにしたい。
- ・マルチメディアデージーを見たことはあったが、実際のダウンロード方法などの実演を見せていただき勉強になった。

〈共通〉

- ・ICT と図書館という課題にむけてそれぞれの図書館で模索されていることを具体的に知ることができた。図書館は図書館、ICT は ICT、ではなく、それぞれの利点を活かしながら学校教育や図書館利用に繋げていくことを考えていかなければならないと感じた。
- ・鳥取県は、図書館独自ではなく、学校とも深い連携が取れていることや、市民（特に子どもたち）も読書が生活の一部に組み込まれているのだろうと想像できた。図書館員が、様々なサービスを展開できるように、アンテナをはることも大切だと学んだ。

【分科会】

〈第2分科会：「ポプラディア」をつかいたおそう！〉

- ・同じポプラディアでも紙媒体とデジタルでそれぞれメリットとデメリットがあると思うので、使い分けが重要だと思った。
- ・ICT と紙の本の両方の良さを活かし、活用していくという点において、実際にポプラディアを用いた授業でも、個人タブレットや百科事典を同時にうまく使いこなすよう勧めていきたい。

〈第3分科会：学校図書館×ICT〉

- ・黒見先生の「校内外の研修会に司書が入った方がよい」というお話には大変共感した。今までは学校図書館や司書が「縦割り」に考えられ、予算や研修会などでは「蚊帳の外」「後回し」ということが多かったが、生徒に最前線で接していると考えれば、他の先生と一緒に教育に参加していくことが必要だと思う。学校図書館が学びの場として認識され、司書が他の先生と一緒にレベルアップできる環境が増えて欲しいと思った。
- ・尾崎先生の「安易に妥協しない姿勢の人を育てる」という言葉が身にしみた。ICT 機器が充実しても、それを使いこなす人が育っていないと深い学びへと進むことはできないと思う。
- ・学校図書館支援センターが県立図書館内にあり、学校司書のための ICT 研修、また指導主事自身が学校図書館や情報教育に関する研修を積んでいるところが先進的だと思った。
- ・それぞれの方が図書館活用推進のため、それぞれのやり方で頑張っておられると感じた。ICT 活用と図書館が対立するものではないという共通認識が進んできていると思う。

7 成果と課題

- ・新型コロナウイルス感染症拡大により 10 日前にオンライン開催することになり、スタッフマニュアル改定等準備に時間を要したが、参加者からは「オンラインだったので参加できた。」「他県からの参加も認めていただき、オンライン開催は大変ありがたい。」「ぜひ次回以降もオンライン参加の選択肢を残して欲しい」等、好評であった。
- ・大会テーマ「ICT を活用した図書館のあり方～デジタル化によるメリットを学ぶ～」は、GIGA スクール構想の実現、ICT 教育の充実が推進されている中、館種を問わない喫緊の課題であり、記念講演、事例発表、分科会どれも参加者の満足度が高かった。
- ・今後は、ハイブリッド開催となる可能性が高いと思われるが、オンライン操作、感染症対策に、今までよりも多くの人員が必要となる。迅速に事前準備を進めることが必要である。
- ・ハイブリッド開催が主流となると、オンライン参加で会場に参集する者も少なくなり、配布資料もホームページから各自で印刷できるので、新規会員の加入、会員外収入も減少するという課題がある。今後、会員の加入について、方策を考えることが必要である。



【青山学院大学 野末俊比古氏の記念講演】



【会見小学校 安田美穂子氏の事例発表】